



いつか花開く日を信じて・・・



職員玄関前の梅の花が咲き、春の訪れを感じる季節となりました。こうなると待ち遠しくなるのが桜の開花です。今年は例年よりも早くなるようですが、桜の開花には『600℃の法則』というものがあるそうです。それは、「その年の2月1日以降の最高気温を足し算していき、累積温度が600℃を超えた日に桜が開花する」というものです。桜も開花に適した気温に達すれば、急に咲くのではなく、時間をかけてしっかり準備していることがわかります。

人生においても同じことがいえるのではないのでしょうか。人も夢や目標に向かって日々努力しますが、その成果はなかなか表に現れないことが多く、そのため途中で諦めてしまいがちです。しかし、最後まで粘り強く継続していくことで花開くことがあります。

2月17日（土）新型ロケット「H3」2号機が鹿児島県・種子島宇宙センターから打ち上げられました。今回は約1年前の失敗を活かし、見事に目標の軌道に到達しました。新聞記事によると、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の責任者である岡田匡史プロジェクトマネージャーは「原因究明と対策がなかなか進まない時期もあり、本当にしんどかったが、頑張って取り組む仲間の姿に突き動かされ、なんとかやり抜いた」と述べています。そして、「ロケットの打ち上げは一度発射したら、もうやり直せない。その難しさ乗り越え、成功させたときの達成感が一番の魅力。好きなことなら、どんな困難でも乗り越えられる」と語っています。さらに若い人たちにに向けて「まず何か好きで夢中になれることを見つけてほしい。見つけること自体が楽しいし、それにチャレンジして困難を乗り越えると、さらに遠くの世界が見えてくる」とメッセージを送っています。子どもたちの成長において、大変勇気づけられる話ではないのでしょうか。

3年生においては、一昨日、公立高校の合格発表がありました。第一志望校に合格した人もいれば、残念ながらそうではなかった人もいたと思います。試験ですから、合否が出てしまうのは致し方ないことです。しかし、子どもたちの人生において高校入試の結果が全てではなく、ゴールでもありません。『人間万事塞翁が馬』です。果たして合格したことが本当に良いことなのか、不合格だったことが悪いことなのかは、今後の生き方によって決まってくるのではないのでしょうか。高校入学は長い人生の通過点です。「どこの高校で学ぶか」が大事なのではなく、「何をどのように学ぶか」が重要なのです。今回、残念な結果に終わってしまった人も気持ちを切り替えて、将来の夢に向かって努力し続けて欲しいと思います。

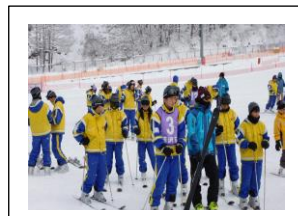


白銀の世界を満喫！～1年生八ヶ岳野外体験教室～

1年生は2月4日（日）から2泊3日で藤沢市八ヶ岳野外体験教室に行きました。1日目のお昼は山梨県の郷土料理である「ほうとう」を施設の職員の方に教わりながら班ごとに手作りし、自分たちの作ったほうとうを食べました。2日目は雪が降り、あいにくの天気でしたが、スキー場では新雪が降り積もり、ゲレンデは最高の状態でした。生徒はそれぞれのスキルに応じてグループに分かれて、スキーを堪能していました。藤沢ではなかなかウィンタースポーツに触れる機会がないので、貴重な体験だったと思います。夜は集会棟でキャンドルファイヤーを行い、私も“火の神”として参加しました。その後のゲームやエールマスターでは、当日まで十分な準備をしてきた成果が見事に発揮され、楽しい時間を過ごすことができました。3日目も雪が止まず、高速道路も通行止めとなり、何時に帰校できるか、不安でしたが、山梨県の甲府昭和ICから中央道に乗ることができ、予定よりも1時間遅れで学校に到着することができました。しかしながら、3日間で10人余

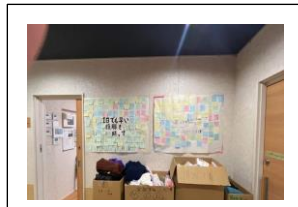
りの発熱者が出ました。病院対応等で大変でしたが、雪の中、体験教室までお迎えに来ていただいた保護者の皆様のおかげで、何とか予定していたプログラムを無事終えることができました。その後の学年閉鎖の対応も含め、さまざまな点で保護者の皆様にご理解・ご協力をいただいたことに、改めて心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

藤沢市では味わうことができない体験をたくさんさせて頂いて、とても良い思い出になりました。その中でも強く印象に残っているのが『自然』です。藤沢市ではあんなに雪が降らないので、思いっきり雪で遊ぶこともないのですが、八ヶ岳では友達と雪遊びをすることができました。そして、スキー場ではものすごく綺麗な雪景色を見ることができました。とても楽しかったし、すごく良い思い出になりました。



生徒の皆さんの募金とメッセージ、無事被災地に届きました！

1月の下旬から2月にかけて集めた募金やメッセージが藤沢市社会福祉協議会の方々のご協力により無事被災地に届けられました。メッセージは輪島市にある福祉避難所に右のように掲示されています。能登半島地震からちょうど二ヶ月が経ちましたが、未だに避難所生活を強いられている方がいます。生徒の被災地を思う温かいメッセージが、避難されている方々やそこで働いているボランティアの方々の心の支えになってくれたらと願うばかりです。



「主体的な学び合いのために」 ～研究授業の実施～

2月14日（水）5校時、全学年の他のクラスを昼食後下校とし、2年3組で数学の研究授業を実施しました。単元は確率で「くじ引きは先に引くのと、後に引くのはどちらが有利か？」という課題について、さまざまな方法で解き明かしていく授業でした。生徒が自分事として切実に考えられる問いであったのか、懸命に課題と向き合い、個人で考えた後、班ごとに自分が考えた解き方を伝え合っていました。私が参観していて感心したのは、全職員が観ている中で、教室の前に出てきて自分の言葉でその考えをしっかりと発表できたこと、そして、その解法が人それぞれであったことです。そして、研究授業後も2年3組の生徒たちが授業で取り組んだ課題について語り合っていた姿がとても印象的でした。研修会の講師としてお招きした慶應義塾大学教授の藤本和久先生からは「自分とは異なる意見と出会ったときに簡単に納得するのではなく、その考えを吟味し、根拠を持って理解していく批判的思考が重要である」といった主旨のご助言をいただきました。今後も子どもたちが少しでも「主体的な学び合い」ができるように機会を捉えて授業改善に努めてまいります。



それぞれの季節に合った壁面飾り ～8組の製作～

北棟1階の8組の教室付近にある壁面には右の写真のようにそれぞれの季節に合った飾りが展示されています。現在は雛祭りをイメージした作品です。交流級の生徒たちも足を止めて、「すごく上手だね！」とその出来映えに驚いている様子を見かけることがあります。そうした声が8組の生徒に届くと、とてもうれしいようです。また、その気持ちが次の作品製作へのエネルギーにもなっています。今後も季節感あふれる作品を楽しみにしています。



★新年度の始業式・入学式は4月5日（金）となります。